



## ヨコにつながら

未来を拓くコーディネーション

全国ボランティアコーディネーター研究会  
 JVCC二〇一六 YOKOHAMA開催

三月五日(土)六日(日)に、神奈川県横浜市福祉保健研修交流センターウィング横浜で、認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(以下JVCA主催)の「全国ボランティアコーディネーター研究会二〇一六」が開催されました。

運営事務局スタッフやボランティアスタッフを含め、全国各地より三〇〇名の参加があり、「さわやか」から高原と貞谷が参加しました。

最初は、参加者が緊張しているのを和ませるために運営スタッフがジャグリングのショーを披露してくれました。

皆、笑い拍手に包まれました。能力を活かした

コーディネーションを行う

JVCAの筒井のり子代表理事から「この研究会で、異なる組織や分野、いろいろな地域の方と知り合いになり、今後の活動で能力を生かした、より良いコーディネーションを行なって欲しいと思います」と開会の挨拶がありました。

次に、横浜市社会福祉協

代表理事 筒井のり子氏



認定特定非営利活動法人  
 日本ボランティア  
 コーディネーター協会  
 代表理事 筒井のり子氏

### ボランティアコーディネーターとは？

主体的・自発的に社会のいろいろなテーマや課題に取り組むというボランティア活動を理解してその意義を認めて、その活動に様々な人を組織が相互に調整すること、一人ひとりが市民・社会として参加することを可能にするというボランティアコーディネーションの役割を、仕事として担っているスタッフのことをいいます。

### ボランティアコーディネーターの8つの役割とは？

ボランティアコーディネーターには、次の8つの役割が求められます。組織のタイプや活動分野にかかわらず、共通する項目です。

1. 受け止める 市民・団体からの様々な相談の受け止め
2. 求める 活動の場やボランティアの募集・開拓
3. 集める 情報の収集と整理
4. つなぐ 調整や紹介
5. 高める 気づきや学びの機会の提供
6. 創り出す 新たなネットワークづくりやプログラム開発
7. まとめる 記録・統計
8. 発信する 情報発信・提言

実際には、この8つの役割は、互いに関連し合っています。とくに、「つなぐ」は残り7つの役割の中心に位置づけられています。(日本ボランティアコーディネーター協会HPより抜粋)

活動に参加する社会人は、自分自身もう少し成長したい、新しい視点に期待したいという意識を持つ方が多く、その得られる経験において、自分自身の価値や能力が再発見できます」と話されました。

誰もが安心して暮らせる  
 まちづくり  
 また「地域ケアプラザ」

最後に、ボランティアコーディネーター役割は八つありますが、(詳細は左の枠に掲載)それが機能するように活動しようと思っ

その後、オープニング大会『未来を拓くコーディネーション』多様な人々を巻き込む新たな市民参加のしかけ」と題して、コーディネーターにJVCAの筒井のり子代表理事、パネリストに(一財)子どもの貧困対策センター「あすのぼ」の小河光治代表理事、NPO法人二枚目の名刺の松井孝憲常務理事、(社福)若竹大樹会横浜市東寺尾地

域ケアプラザの土屋環地域交流コーディネーターを迎えて話がありました。

最初に筒井氏は「現状としては、地域の活動に参加する人が減少しています。その中で、どのようにして新しい人達を巻き込んで活動に参加してもらえるのかを三名の方々に話をしたいいただきます」と話されました。

子供たちの変わっていく  
 姿に励まされる

次に「二枚目の名刺」の松井氏は「私達は、社会人が本業で持つ一枚目の名刺の他に二枚目の名刺を持つきっかけを作ることが、当たり前となる社会の雰囲気をつくる事を目指しています。主な活動として『Common Room』(コモンルーム)と『サポートプロジェクト』(社会人がNPOと協働するプロジェクト)を行っています。

目標は一四五ヶ所設置すること、平成二十七年四月現在は一三三ヶ所あります。地域交流コーディネーターの仕事として、ボランティアの育成や支援、地域活動の支援を行っています。

また、地域のネットワーク作りも行っています。

最後に、ボランティアコーディネーター役割は八つありますが、(詳細は左の枠に掲載)それが機能するように活動しようと思っ



分科会A

高齢化するボランティアとの向き合い方

〜環境&福祉分野のボランティアコーディネーションを考える!〜

三月五日(土) 十三時三〇分から分科会Aが始まりました。分科会Aは十一の分科会で構成されています。その中のA・②「高齢化するボランティアとの向き合い方」に参加しました。

分科会A・②の参加者は三十二名で、六班に分かれてワークショップ形式で行われました。

分科会が始まってすぐに「あなたが考える高齢者が係わるボランティア活動のプラス面とマイナス面は何ですか?」と題しての調査結果発表があり、主なプラス面は、ボランティア活動を行う事が自分自身の生きがいになっていること、そして主なマイナス面としてケガの心配や体調面の不安との報告がありました。

重視しよう

ボランティアさんとのコミュニケーションを

講師と事例発表者を兼ねてNPO法人よこはま里山研究所(NORA)主任研



三月五日(土) 十三時三〇分から分科会Aが始まりました。分科会Aは十一の分科会で構成されています。その中のA・②「高齢化するボランティアとの向き合い方」に参加しました。

分科会B

「動員」を考える

〜動員(doining)からdoining〜

全国ボランティアコーディネーター研究会の二日目は三月六日(日)九時三〇分から分科会Bがありました。

分科会Bは、十二の分科会で構成されています。その中のB・③「動員」を考える(動員(doining))からdoiningへ』に参加しました。

分科会B・③の参加者は八名でした。

この分科会では、ボランティアコーディネーターはボランティア活動を行う際には、ボランティアを多く

出し合い班の代表者がそれぞれ発表し、参加者全員で情報を共有し合いました。共通していた項目として「感謝している気持ちを表す」ことや、「話をとことん聞く」などが挙げられました。最後に吉武氏は「コーディネーターが、ボランティアさんとコミュニケーションを取ることを大切にしていけるかを話しました。」と話され、一日目は終了しました。

と挨拶がありました。最初に、各自が自己紹介を行い、テーマとして「動員をしてしまったこと」と「動員されてイヤだったこと」について事例を紙に書き出し、各自発表しました。その後、解決策について参加者みんなで意見を出し合い共有しました。

「負担感」を感じないよう

「負担感」を感じないよう「することには「孤立感をなくす」と西川氏は「負担感とは、『時間がない』や『作業量が多い』という事を意味として使われているが、たくさん時間を使っても負担感を感じない時や少しの時間でも負担感を感じる時もあります。負担感を感じ『つらい』や『つまらない』と感じる感情は五つに分類されます。『1』意味なし感 活動の意義が不明で、役に立っていないかわからない。『2』やらせれ感・変えられない感 自分で決められない。『3』わからない感 全体像が見えないままに言われたとおりにやるしかない。『4』キャパオーバー感 具体的な能力がいつかかない。『5』孤立感 一番の負担感。真面目な気持ちが生み出してしまふ。また他には、『達成感』

訃報

「さわやか」理事の田村昌弘氏が三月七日逝去されました。七十一歳でした。



募んで参加を求めます。『動員』によるボランティアの『負担感』を整理し、どのようなしたら魅力的な活動に近づけていけるかを話し合いたい考えることを目的としています。コーディネーターには認定特定非営利活動法人ハンズオン!埼玉の西川正常務理事をお迎えしました。西川氏は「『動員』とは、ある目的の為に人や物を集める事をいいます。本日は皆さんと一緒に『動員』に対する思いと一緒に考えていけたらいいと思います」

「負担感」を感じないよう「することには「孤立感をなくす」と西川氏は「負担感とは、『時間がない』や『作業量が多い』という事を意味として使われているが、たくさん時間を使っても負担感を感じない時や少しの時間でも負担感を感じる時もあります。負担感を感じ『つらい』や『つまらない』と感じる感情は五つに分類されます。『1』意味なし感 活動の意義が不明で、役に立っていないかわからない。『2』やらせれ感・変えられない感 自分で決められない。『3』わからない感 全体像が見えないままに言われたとおりにやるしかない。『4』キャパオーバー感 具体的な能力がいつかかない。『5』孤立感 一番の負担感。真面目な気持ちが生み出してしまふ。また他には、『達成感』

様々な『感』の結果生まれる、『心の冷え』が『負担感』の正体です」と話され分科会Bは十三時一〇分に終了しました。十四時から、二日間のまとめとして、クロージング全体会が行われました。今回は、学習院大学文学部教育学科の長沼豊教授を迎えて、『ヨコだけじゃない!』タテとナナメにもつなげるコーディネーションと『ヨコハマから架け橋を』と題して、分科会の内容を踏まえて、参加者全員で『未来を拓くコーディネーション』について考え、研究会は十五時三〇分に終了しました。来年は三月四日(土)・五日(日)に福岡県大野城市で開催されます。